

ニクニ

長岡市立科学博物館報

No.107 2023



# NKH

107号

2023年3月

## 目次

令和4年度企画展・特別展 .....	1
令和4年度熱中!感動!夢づくり教育推進事業 実施報告 .....	5
児童・生徒「昆虫標本展」「岩石・化石標本展」「自然科学写真展」 .....	10
ネイチャーセミナー .....	11
令和4年度事業報告 .....	12

### 表紙写真

#### 大河津分水河口海浜域のスナガニ

日本最長河川である信濃川の洪水対策用放水路として建設された人工河川「大河津分水」が、2022年に通水100周年を迎えました。人の手によって創出されたこの分水の河口は市内最大の河口であると同時に、過去100年間、河川水と共に大量の土砂も日本海に放出し続けてきました。これにより、河口周辺沿岸域では、砂浜が最大で650m以上も前進するほど、景観が変貌しました。近年、全国的に砂浜の縮小・後退が問題となっていますが、本河口域はこのような真逆の歴史を辿ってきた場所であることが知られています。

現在、大河津分水が生み出したこの広大な海浜域は、様々な海浜性生物の棲み処となっており、「健全な砂浜の指標種」と言われることもあるスナガニの繁殖地になっています。(動物研究室 鳥居憲親)

表紙デザイン：本間正三

## 解説ノート (64)

### 「スナガニ *Ocypode stimpsoni*」



スナガニは半陸性の小型のカニです。夜行性で警戒心が強く、日中は巣穴に隠れていることが多いです。本種はカニの中でもトップクラスの俊足で、危険が迫ると巣穴や波打ち際まで一目散に走って逃げます。食性は雑食性で、ハマトビムシ類、昆虫、貝類、砂の中に含まれる珪藻類等を食べています。ハサミの大きさが左右で異なり、大きいハサミは獲物を押さえつける際などに利用されます。

スナガニは夏の夜に集団でハサミを振り上げ、伸びあがるように踊るウェービングダンスを行い、繁殖相手を



見つけます。また、ウェービングダンスの合間には、地団太のようなステップを踏んだり、ハサミの内側をこすることで、音を鳴らすこともあります。普段は砂地に似た地味な体色をしていますが、このダンスを踊る際には体色が赤くなります(右写真)。

幼生時代は海でくらししており、脱皮を繰り返してメガロパ幼生まで成長すると砂浜に上陸し、陸上で変態して稚ガニになります。新潟県では8月中旬頃から幼生の上陸が確認されます。

(動物研究室 鳥居憲親)

N K H (長岡市立科学博物館報) No. 107

令和5年3月31日発行

---

編集・発行 長岡市立科学博物館

〒940-0084 長岡市幸町2丁目1番1号

印刷 株式会社 中央印刷

〒940-0041 長岡市学校町1-9-21